

星屑

1997. 01
No. 263

262

Nov. 27, 1996 C/1995 O1 (HALE-BOPP).



ヘル・ボップ彗星

1996. 11. 27

18:35 3分露出

41cm F6 Bitran BT-11C

熊本県民天文台

広く世界へ、深く地域へ

15周年を迎える熊本県民天文台

台長 鮎島 敬昭

1995年は官僚の不祥事が相次ぎ、「官官接待の自粛」で年末のネオン街は静かに暮れましたと聞きましたが、実体は如何だったのでしょうか? バブル経済崩壊後に露呈している、幾つもの日本社会のひずみを早く払拭したいものです。

96年、熊本県民天文台にとって、この1年は冷却CCDとコンピューターを中心に動き、インターネットに象徴されるサイバースペースへの進出が一段と進みました。



(写真2：2階観測室PC)

冷却CCDカメラを使えば、手軽に彗星やM天体や宇宙の天体の姿をとらえることができます。パソコンで画像処理して淡い光を引き立たせたり、光度測定・位置測定もできます。

更にインターネットで世界に向かって発表することもできますし、写真やネガに出力することまでできます。今月号の写真は、まさにそうやってみなさんのお手元に届いているのです。アマチュア天文の世界がここまで急変するとは、やっている本人にとって驚きの連続でした。

こうして、情報入手と成果発表の両方が、コンピューターのネットワークを通じて広がり始めています。そこで、今年は、天文台の活動として、是非とも電子メールを使った連絡網の充実をはかりたいと考えています。

例えば、天文現象やイベントの連絡などが瞬時に行き渡るメーリングリストのようなものが良いですね。古くなつてダウンしてばかりの天文台パソコン通信を時代に合わせて再構築するわけです。

皆さんも、NiftyServe（ニフティサーブ）などに加入して、メールアドレスを取得されては如何でしょうか?

「画像もやりとりできるサーバーがあると良いな」と思いますが、問題は乏しい資金の中でどうやって実現するかでしょう。いつもの「借り物競走」が必要かもしれません。

もっと広く、世界へ、という活動はこれからも留まることなく、押し進められるでしょう。もちろん、コンピューターの中の世界だけに留まらずに。



(写真1：1階のPC、インターネットへ接続)

他方、天文台での一般公開は、百武彗星のまさに「彗星のような」劇的な出現でに

ぎわいました。どんなにビデオや本で見ても、本物の姿を自分の目で見ることにはかないませんね。百武彗星は毎日毎日、明るさや尾の長さが変わり、毎日見ていなければ損をするほどでした。計算通りでない彗星の振る舞いに改めて興奮を覚えました。熊日さんの記事のおかげで、お客様共々最高の夜を楽しめたことはよい思い出になりそうです。

97年のヘールボップ彗星は予想通りの大彗星として、私たちを楽しませてくれることでしょう。2月20日前の明け方と4月上旬の夕方、一番よく見えそうな時期に合わせて、盛大に観望会を開催しましょう。私たちの世代では「イケヤ・セキ彗星」を見て天文ファンになった人が大勢いました（私は見逃したのが悔しくて天文ファンになりました）。

ウエスト彗星もたくさんのファンを育てましたね。そんな風に、後で「ヘール・ボップ世代」といわれるような天文ファンの群を、是非とも獲得しましょう。



(写真4：ヘール・ボップ彗星)

冷却CCDで撮像、画像処理した
今月号の写真は、ネガ出力しプリント

ヘール・ボップ彗星がその明るさをまだ保っている97年5月、天文台は15周年を迎えます。大勢の来台者の方に星空観望の楽しみを知つてもらいたいと、熊本県民天文台を開設してから15年もの間一般公開を続けてきましたことになります。

大勢の運営委員の皆さん方の献身的な取り組みのおかげだと深く感謝しています。

熊本大学の天文研究会の皆さんには、特に熱心な協力を頂いています。でも、将来の運営を考えると万全とはいえません。

そこで、昨年からテーマに掲げている地元との交流を深める努力を、一層強力に押し進める必要があります。天文台の月例の運営委員会=トークアバウトでも、望遠鏡の使い方講座、テレスコープ・トレーサーでの天体導入実習、インターネット講習会などを行っていますが、今年は、これを城南町の町民の方々にも広げたいと考えています。

星空を楽しむ方法のすべてを、しっかりお教えする代わりに、少し運営のお手伝いをお願いしようと言うわけです。一人で楽しむだけでなく、人を楽しませるともっと楽しいですよ、と。

一人で考えていても始まらないと、城南町役場を訪ね教育委員会へ相談に訪れたところ、なんと、城南町でも生涯教育について真剣に考えているところで、町内のボランティア育成策を練っているところでした。今年こそ、ユニークな運営委員を増やすチャンスです。星空解説ボランティアの養成講座を始めましょう。

こんな訳で、97年、今年のテーマを「広く世界へ、深く地域へ」とつけてみました。皆さんのお考えは如何でしょうか？

ヘール・ボップ彗星の接近にあわせて、ライトダウンを呼びかけ、サーチライトや余分な照明を消してもらい、その期間だけでも「暗い夜空と美しい星空」を取り戻そうというキャンペーンも始まっています。私たちも、声を上げ、行動する時が来たようです。

C/1995

CCD REPORT

COMET PAGE

1996.12

見つめ

Perco Nine

11月は中旬になってやっと晴れ間がやってきましたが、その後はまた雲の多い天気に戻ってしまいました。こう天気が悪いと KCAO の主砲 41cm はテレス

コ・タイムの取り合いとなってしまいます。貴重な観測時間を 160 万画素カラー CCD カメラ BT-11C が白黒ビニでも撮像できるようになって有効に使えるようになりました。カラー画像が切り替え無しに撮れる、つまり観賞用画像が同時に撮れる利点があるからです。感度の点でも Teleris400 とほぼ同じですし、4 倍の視野面積は観測の能率向上に大きく貢献します。GSC 星野を使うには視野が 15' 以下では作業は困難になります。そこには天国と地獄の差があります。感度からいって、暗い微かな彗星には向きませんが、明るい彗星(といっても 16 等は大丈夫)には十分な戦力となります。BITRAN の CCD カメラも使いやすさが少しづつ向上しているのは確かですね。

では、この CCD カメラによる画像で、ホーキ星たちを紹介しましょう。11月は C/TABUR が減光したことや他の彗星もぱつとしないこともあって、C/HALE-BOPP の独り舞台でした。

★ C/1995 O1 (HALLE-BOPP)

C/1995 O1 (HALE-BOPP)

Nov. 27, 1996 0.41-mF6L

N
A
B
K



この星は逆行になり、北上の速度が上がったために太陽との離隔が小さくなつた割には西空でしつ



C/1995 O1 (HALE-BOPP) Nov. 12, 1996 KAO 41cm



C/1995 O1 (HALE-BOPP) Nov. 13, 1996



C/1995 O1 (HALE-BOPP)



C/1995 O1 (HALE-BOPP)

Nov. 16, 1996

Nov. 25, 1996 18h32m JST 0.41mL F6 BT-11

かり見えています。11月中旬で全光度は4.6等でした。このくらいの光度になると、薄雲があるような空でも観測可能となります。11月6日の画像は雲の中で、7x5cm双眼鏡では星が見えないというひどい空で写したものです。あいかわらずタコ足のようなジェットが顕著で太い尾が印象的な姿です。今後とも機会ある度に変化を記録していきたいですね。たとえ薄明の中でも、月があっても…。

★ 29P/Schwassmann-Wachmann 1. Nov. 19, 1996 0.41-m F6L BT-11C



C/1996 Q1 (TABUR) Nov. 16, 1996 41cm F6L

★ 29P/Schwassmann-Wachmann 1

この星はCCDではまさに常連といってよい星ですが、眼視観測していた頃は滅多に見られない星でした。今年の早春にバーストして子持ちの姿を見せてくれるなど、このところ活動は活発なようです。でも、案外この星はこんな状態が普通なのかもしれません。我々の目が行き届かなかっただけかもしれません。

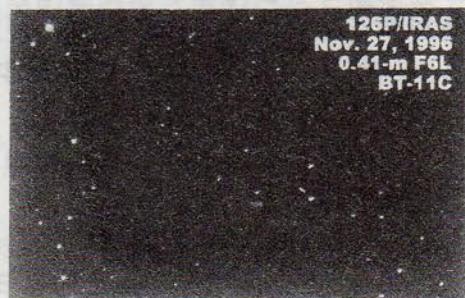
★ C/1996 Q1(TABUR)

先月号で近日点通過前に減光したと書きましたが、11月もその衰弱ぶりは甚だしく、微かな痕跡が写るだけとなっていました。中旬の画像は印刷では表現できないほどの薄さです。この後、12月になると明け方の空で観測条件は良くな

りますが、はたして写るでしょうか？

★ 126P/IRAS

この星も近日点を通過して減光を始めました。小さいけれどしっかりとしたコマと2本の短い尾がありました。



126P/IRAS
Nov. 27, 1996
0.41-m F6L
BT-11C

連続天文小説

「シリウスぶいも輝いて」

第11話

過去

河田容子

「…そろそろ帰ろうか。」

先生達といろんな話で盛り上がり、一段落ついたところで岩永がこう切り出した。窓の外では、星が輝き始めていた。

「そうだな。」

沢木と岩永は車に乗り込み、先生達に見送られながら保育園を後にした。二人供すごく疲れていたためか、車の中での会話は少なかった。眠くなるのを恐れてか、岩永が「カセット聞いていい?」と、ボリュームを大にし、さらには大声で歌い始めた。だが、沢木には、その歌声すら遠くに聞こえるほど何か心に引っ掛かるものを感じていた。それは他でもない大沢先生が言ってた言葉だった。(「…白石先生、ミルクティーには思い入れがあるものね。」「…思い入れ…」)

結局、それが何なのか聞き返す事も出来ず、ただあの時のめぐみの表情から察知するに、過去に何かあったのではと考えるばかりで、沢木の頭の中はすっきりしなかった。

「なあ岩永、さっき大沢先生が言っていた事どう思う?」

沢木は岩永のほうを振り向き、意見を求めた、がそこには熟睡している岩永がいた。

「なんだよー。俺だって眠いのに…」

ぶつぶつ文句を言いながらも沢木は、カセットのボリュームを小さくし、アクセルをさらに踏み込んで家路を急いだ。

運動会があった次の週の土曜、ようやく体が、疲れと筋肉痛から完全回復した沢木は、運営時間より一時間も早く、一人で天文台に来ていた。(「今日は晴れているし、お客様多いだろうな。」)

暇な時間を持て余し、寝転がってボーと天井を見ていると入り口の方から「ドンドン」とドアをたたく音がした。沢木はドアの方に近づき、「すいません。まだ開台時間じゃないんですけど。」と言って、ドアを開けた。

「ここにちは。こないだはいろいろお世話になりました。差し入れ持ってきたんですけど…」そこには、両方の手にケーキの箱を持ち、寒さのせいか少し頬が赤くなっている白石めぐみが立っていた。

「あっ、あー、ここにちは。どうぞ中に入って下さい。わざわざすいません。今日は寒いですね。」

自然に振る舞いながらも、突然のめぐみ来台に少しドキドキしながら沢木はめぐみを部屋に通した。

「ええ、何か温かい物でもと思ったんですけど、途中で冷めちゃいますからね、ケーキにしました。…それに甘い物好きだって聞きましたし…」

「あっ、コーヒー入れてきますね。」

そう言っているめぐみの表情を見ないよう、沢木はそそくさと奥の炊事場にお湯を沸かしに行つた。

(「めぐみは岩永の事を言っているのだろうか‥」)

コーヒー缶の蓋を開けてみると残り少なくなっていた。

(「ケーキには紅茶がいいんだろうけど、ここにはないもんなー。…あっ、そういうえば」) 沢木は急に、運動会の帰り道考えていたことを思い出した。

(「直接、めぐみさんに聞いてみようかな…でもそんな事聞いたら失礼かな‥」)

またしても頭の中がパニックになった沢木だったが、コーヒーを入れてめぐみに差し出すと同時に沢木の口は動き出していた。

「すいません。コーヒーしかなくて。そういうえば、こないだ白石先生が入れてくれたミルクティー、本当すごくおいしかったです。ミルクティーにどんな思い入れがあるんですか? 良かったら聞かせて下さい。」

少しこじつけのようだったが、それでもなんとかこの話題にもっていきたかったのだ。どんな返事が返ってこようとも…。めぐみは少しためらったのか、二三度カップに口をつけそれを台の上に置き、窓の外に目を向けた。それからゆっくり話始めた。過去の事を…。

「“天文教室”かー。」

めぐみは自転車を、博物館の掲示板前に止めた。博物館とは言ってもごじんまりとした2階建ての建物で、2階のプラネタリウム室に入れるのもせいぜい10名程度であろう。この建物はK市の中心部より少しはずれた所にあり、通学路の途中にあった。めぐみは高3の受験生。いよいよ受験シーズンを前に、家・学校・塾の間をいったり来たりの忙しい毎日で、精神的にも肉体的にも疲れきっていた。そんな時、いつも気に止めもしなかった掲示板の文字に目が止まつたのである。めぐみは自転車を置き、2階に駆け上がった。プラネタリウム室のドアをそっと開けると、そこには1組の老夫婦と3、4人の子供達が座っていた。

「どうぞ、中に入って下さい。」

ここの係りの人なのだろうか、いかにも人の良さそうな背の高い男の人がめぐみに入るようすすめ、自分も中に入り部屋の前方に立った。

「みなさん、今晚は。今日、みなさんに星空の案内役を努めさせて頂く木下悟といいます。どうぞよろしく。ではさっそく始めましょうか。」

電気が消され部屋の中が暗くなつた。…どれくらいいたっただろうか、投影が終わり、再び部屋の中が明るくなつた。めぐみはぼーとしていた。(「空にはこんなにたくさんの星が輝いているんだ。たくさんの星…」)

初めてプラネタリウムを見たわけではなかったが、何か忘れていたものを思い出したかのようにめぐみの頭の中はいっぱいだった。

「さあー、今夜は空の状態がすごくいいから、屋上に上つて望遠鏡を覗いてみよう。」

子供達がわらわらと階段を駆け上がり、それに続いて老夫婦がゆっくりと上

っていった。めぐみも後に続いた。初めて覗く望遠鏡、教科書に載っていた写真と同じものが見える。めぐみは夢中で望遠鏡を覗き込んでいた。1時間かそこらたつだろうか、さすがに12月の夜は寒く、星空に感動、どころじやなくなってきた。

「みなさん、そろそろ談話室の方へどうぞ。」

通された部屋には、たくさんの星に関する本が置いてあり、中央のテーブルの上にはお菓子とカップが用意されていた。

「わーい。悟兄ちゃんのミルクティーだー。」

子供達によると、天文教室の後、必ずミルクティーを入れてくれ、それがまた特別おいしいのだという。テーブルの周りにみんな腰を下ろしあしゃべりをし始めた。子供達は、小学校で今日あった出来事を逐一悟に報告し、悟はそれら1つ1つをうなずきながら聞いていた。めぐみは、悟や老夫婦・子供達の話を黙って聞いているだけだったが、次から次ぎへと出てくるおもしろい話に時を忘れ、気づいたときには夜の10時をまわっていた。めぐみはあわてて席を立ち、一礼してから部屋を出ろうとした。

「また今度、遊びにおいで。気をつけて帰ってね。」

悟は優しい口調でそう言ってめぐみに手を振った。（「また今度…」）自転車をこぎながらめぐみはこの言葉を、頭の中で何度も繰り返していた。

「ただいまー。」

「おかえり、遅かったのね。何かあったの？」

「ちょっとね…」

いつもは、その日にあった出来事を母親に話していためぐみだったが、今日は家に着くなり2階に駆け上がっていった。今日の事は話さなかった、話したくなかった…プラネタリウムの事、望遠鏡の事、…悟の事。

よく晴れた日曜の朝、めぐみはテレビの前でボッとしていた。昨日の事を思い出すだけで、なぜかドキドキしていしている自分に気づいたのだ。

「今日も行ってみようかな…。」

めぐみは夕方が待ち遠しくなった。午後6時、プラネタリウムが始まる1時間前にはもうすでに、めぐみは博物館に来ていた。談話室のドアをそっと開けるとそこには悟の姿があった。

「今晚はー。昨日はどうも。」

めぐみは深々と頭を下げた。

「あっ、今晚は。よく来たねー。中に入つていいよ。寒かったでしょう。」
そう言って、悟はめぐみにミルクティーをもってきた。

「このミルクティー、本当においしいです。どうやったら、こんなにおいしくいれれるんですか？」

「よし、じゃあ君だけに教えてあげよう。他の人にはヒミツだよ。こっちにおいで。」

めぐみは、悟と自然に話せた事、そして何より二人だけのヒミツを持てた事がうれしく思えた。

それ以来、めぐみはたびたび博物館を訪れるようになり、悟の事を知るたびに思いは募り、

なかなか勉強が手に付かない日々が続いた。（「このままではいけない。このままでは・・」）

ついにめぐみは思いを打ち明けるため、悟宛に手紙を書いた。書き終えて窓の外を見ると、満月の光で町並みが明るく照らされ、その光は部屋の中間で差し込んでいた。次の朝、学校に行く途中、博物館の前を掃除していた悟から、めぐみに話しかけてきた。

「おはよう。今日も早いね。」

「あっ、おはようございます。・・あのー、この手紙読んで下さい。」

半ば押しつけるかのように手紙を渡し、その場を急いで去っていった。

手紙を渡して3日が過ぎた。めぐみはなかなか悟の所へ行くことが出来なかった。（「返事は聞かなくても分かってる。ただ自分の気持ちにけじめをつけたかっただけなんだから・・」）何度も自分にそう言い聞かせ、やつとの思いで博物館に足を運んだ。

「すいませーん。今晚は。・・すいませーん。」

入口の所で叫んでも、なかなか悟は出てこなかった。

「はーい。」

ようやく奥の方で声がすると同時に、めぐみの胸は高鳴り始めた。・・がしかし、顔を見せたのは見知らぬ男の人だった。

「あのー、悟さんは…」

悟ではなかったのでほっとした反面、何か不安がよぎった。

「あっ、木下さんのお知り合いの方ですか？ご存じないんですか？」

「えっ・・」

「…実は、3日前交通事故でお亡くなりに…」

…めぐみは頭の中が真っ白になった。それからどうやって家にたどり着いたのか分からぬが、気づいたときには部屋の中にいた。（「亡くなった？そんな分けない。3日前、朝、ちゃんと悟さんに会ったのに…。・・3日前って、手紙を渡した日では・・」）

日々のたわごと

あけまして、あめでとうございます。昨年は豊饒共々お世話になりました。今年もスタッフ一同頑張りますので応援宜しくお願ひ致します。12月に入って、いきなり吹雪きましたねえ。寒いのはイヤですが（寒いのも。。。）雪も綺麗ですね。寒がら見ている分には。。。2000年まで暖わしが、2000年におったらコンピューターはどうなるのでしょうかといらん事はっかい考えながら歳を取って行くのね。（歳の話はやめなさい）さて、前回の表紙にも載ったし、（あー、見苦しい！！）今年も載むぞ！！。

☆ 1月の天文現象＆行事 ☆

1日（水） 元旦（初日の出 熊本 7：22ごろ）

2日（木） 下弦（10：45）

5日（日） 小雪（16：24）

9日（木） 新月（13：26）

10日（金） 月が最近（359229Km）

11日（土） トーカアバウト（20：00～）

16日（木） 上弦（05：02）

24日（金） 満月（23：06） 水星が西方最大離角（24°32' 光度 -0.1）

26日（日） 月が最遠（406218Km）

29日（水） 火星が遠日点通過（1.66593天文単位）

熊本県民天文台機関誌 「星屑」 1997年1月号 通巻262号

発行所 熊本県民天文台事務局 TEL 861-42

熊本県下益城郡城南町塚原古墳公園内 熊本県民天文台

TEL 0964-28-6060

振替口座 01980-0-24463

熊本県民天文台事務局 担当 中尾 富作

ホームページ http://denouken.kmt-technopolis.or.jp/KUMA/KCA0_TST.HTML